

## 平成 26 年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	自然遊びで元気っ子
事業主体 (連絡先)	自然遊びで元気っ子 0263-50-3119
事業区分	③教育・文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	665162 円 (うち支援金: 498000 円)

## 事業内容

23 事業 39 回実施した。

**食育事業**…子どもが遊びの中で食べる食事やおやつを自ら栽培し調理する。

- 陸稲栽培 (もち米) : 餅つき・団子餅・切り餅・甘酒・赤飯・凍り餅・五平餅・お汁粉にする。わらは三九郎型基地に使用、納豆作りに使用。
- さつま芋栽培 : 焼芋・干芋・豚汁に使用。
- 大豆・小豆栽培 : 大豆は黄な粉・じんだ餡・納豆・節分の煎り豆、小豆は小豆餡・赤飯に使用。
- 蕎麦栽培 : 種まきから収穫をして 3 回の蕎麦打ちをする。
- 収穫祭 : 夏から秋にかけて作った作物を調理して食べたり保存する。
- 節分の炒り豆作り : 自ら作った大豆を基地の囲炉裏で炒り家で豆まきをする。
- 火おこしと焼芋作り : 昔の弾み車で火をおこし自ら作った焼芋を焼く。
- 火おこしとバームクーヘン焼 : 昔の弾み車で火をおこしその火でバームクーヘンを焼いて作る
- 納豆作り : 大豆と陸稲のわらを用い、発砲スチロール箱で温度調整をしながら作る。
- 胡麻栽培 : 胡麻餅と五平餅に使用する。
- 流しそうめん : 子どもが自主的に行う流しそうめん。

**ものづくり事業**

- 麦わらの虫かご作り : 麦わらを編み上げて縦 20cm 横 15cm の虫かごを作る。
- 立体凧作り : 桧の棒と障子紙で立体の凧をつくる。
- 注連縄作り : 陸稲のわらで作る。
- 三九郎型基地作り : 柱 4 本で高さ 5m 下は 3m 四方でビニール・竹・葦・陸稲のわらで覆い中は空間にしてブロックで囲炉裏を作り火を焚いたり餅を焼いたりすることができる。外側には見張り台とターザンロープを作り遊ぶ。これを基地と呼びここでもの作りをする。
- 竹笛 (初音) 作り : 正月の縁起物。竹で小さな笛を作る。



陸稲米の餅つき



三九郎基地作り

- 小鳥の巣箱作り：杉板で作る。
- 竹で知恵の輪作り：竹棒に糸を通して作る。
- 弓矢作り
- 竹とんぼ作り
- 木の枝でゴム鉄砲作り
- 竹馬作り
- 三九郎型基地の解体

## 事業効果

60通の一言の感想文から

- 4年生；ゆみやを作って昔のあそびもいいなあと思った
- 2年生；むかしの人はこんなにむずかしいことをやっていたんだと思いました
- 6年生；学校では田んぼでお米を作るけど、はたけでお米を作れるんだと思った
- 2年生；あずきも作っておしるこを食べておいしかった。こんども作って食べてみたい
- 5年生；そばを作ってママにあげたらよろこんでくれてうれしかった
- 5年生；横山さんと遊んでゲームより自然と遊ぶ方が楽しいことがわかった
- 5年生；ターザンロープをみんなで作ってみんなで遊べたので楽しかった
- 2年生；パチンコはよくとんだ。2人できょうりよくしてつくった
- 1年生；ふだんあそべないあそびをしたのしかった。またきたいです
- 2年生；そばづくりで、きるときとってもふとくて、うどんのようになりました
- 中学生；昔は水田ではなく畑で米を作ったことがあったことは知らなかったけど、おいしいお餅ができて本当にびっくりした
- 中学生；自分より小さい子に竹馬作りを教えるのは大変だったけど、上手にできるとうれしかった
- 中学生；竹馬を作って乗って自分で全部やったことに感動した
- 母親；子どもと一緒に私も楽しませてもらってます。毎回来るたびに子供のイキイキした様子を見られてうれしいです
- 母親；毎回とても良い経験をさせてもらっています。またいろいろなイベントをやっていただけたら嬉しいです
- 父親；洗馬から来ました。子供が思ったままに遊んでいる姿がとても楽しそうでよかったですと思います

「地域の子どもは地域で育てる」を基本に自然の中で遊んだ参加者の気持ちは事業の目的である遊びの文化・食の文化と大切さ、自主性・協調性・考える力・行動する力・感動して自信を付けたなど子供の成長に貢献できた。

また親の「子育ての楽しさ」、子どもを迎えに来た親同士の立ち話など子どもを通して親と親の繋がりもみられた

## 【目標・ねらい】

- ①地域の子どもは地域で育てる
- ②子どもの遊びの権利を尊重する
- ③子どもにやさしい居場所作り
- ④食と外遊びの文化・大切さを学ぶ
- ⑤外遊びの中で情緒豊かな成長を願う

### 今後の取り組み

- 子供の遊びたい気持ちを大切に子どもに寄り添いながら「子どもは地域で育てる」ことを胸に事業を進めていきたい
- 少子社会で兄弟の関係を持てない子どもにとっては異年齢の集団の体験は貴重なので地域の中に家庭があるような居場所としたい
- 今井児童センター、鉢盛中学校との連携も深めていく
- 自発的に子どもと遊ぶ会員を求め遊びの幅を広げていきたい

※自己評価【 A 】

### 理由

- 子どものやりたい気持ちを大切に20事業を23事業にした。また、実施日に参加できなかった子は、後日実施した。
  - 参加定員を撤廃し、無制限にした。
  - 支援金でビニールハウスを作ったので、雨天でも実施できた事業があった。
- 以上の点から実施率も上がり、参加者も大幅に多くなった。